



日本・フィンランド  
友好プロジェクト2007



# フィンランドの国語教科書著者 メルヴィ・バレ先生を 日本へご招待しました

## フィンランド教育との出会い

『ブルーベリーアイ』の原材料ビルベリーが見つないでくれた、日本と北欧フィンランドの架け橋になりたい。

この想いから、わかさ生活は「日本・フィンランド友好プロジェクト」に取り組み、両国のすばらしさを伝える活動を行っています。

このプロジェクトを通じ、私たちは「学力世界一の国」として注目を浴びる、フィンランド教育のすばらしさと出会いました。

## 日本で広く知ってもらいたいフィンランド教育

フィンランドが「学力世界一の国」といわれるその秘密は、「読解力」を養う国語教育にあるといわれています。わかさ生活では、「日本・フィンランド友好プロジェクト」の一環として、日本でも広くこのフィンランド教育を知ってもらうため、現在フィンランド国内の多くの小学校で使用されている教科書の著者であるメルヴィ・バレ先生(以下メルヴィ先生)を日本にお招きしました。

京都府京都市、兵庫県丹波市の小中学校をメルヴィ先生が訪問し、各学校の図書館をはじめ施設の案内、授業の見学などの後、フィンランド教育を実践されている立場でお話をいただきました。



日本の授業を興味深く見学されました



フィンランドや、教育についてお話していただきました

## 「フィンランド小百科事典」全国の小中学校へ寄贈



「日本・フィンランド友好プロジェクト」の一環としてこの秋、日本全国の小中学校に寄贈された「フィンランド小百科事典」が、メルヴィ先生の手で京都市の小中学校、丹波市の小中学校の子どもたちに渡されました。

はるばる日本へやって来られたメルヴィ先生を子どもたちは、「サンタクロースはフィンランドのどこからやってくるの?」「先生はなぜ教科書にたくさん絵を使っているの?」など、質問せめに。それに対しメルヴィ先生は「フィンランドのことを知るためには本を読むのはどう?フィンランドにはみんなの知っている“ムー”から始まる物語(ムーミン)もあるのよ。それは何か分かるかな?」と、読書に興味を持たせたり、「教科書に登場する絵は皆が楽しく勉強できるお手伝いをしてくれるのよ」と答え、子どもたちもメルヴィ先生のお話に夢中でした。



子どもたちからはたくさんの質問が飛び出しました



子どもたちとふれあうメルヴィ先生

来日中、メルヴィ先生は、子どもを教え、育てる立場として、子どもを持つ親や先生に向けた公演会を行いました。京都市で行われたこの公演会では、「フィンランド流 本との付き合い方(京都府教育委員会主催)」として、読書や教育について語っていただきました。わかさ生活はこの講演会に協力しました。

講演会に参加された方は、「これからの仕事、子どもとの関わりについてたくさんのヒントをいただきました」「仕事・子育てでいちばん大切なことが私にはなかなかできていません。メルヴィ先生の講演会は自分を見直す良い機会となりました」など感想を述べられていました。

今回の活動が、子どもたちの「自ら学ぶ力を養う」教育への一助となること、そして日本とフィンランドの友好がさらに深まること、それが私たちわかさ生活の願いです。

## メルヴィ・バレ先生について

メルヴィ・バレ氏 / 1945年生まれ。

前ヘルシンキ大学付属小学校(フィンランド)教諭、フィンランド国語教育実践の最高権威。1974年からヘルシンキ大学で教育学を教え、読み書きの指導等に関する著書(共著を含む)を300冊以上執筆。

日本でもメルヴィ氏が執筆したフィンランド国語教科書が日本語訳され、京都市内の小中学校で実施されている「論理的読解力」の授業(構造改革特区制度により創設)で活用されている。

2007年6月、ヘルシンキ大学付属小学校教諭を引退。現在、教師を育成するための教育に専念している。



### フィンランド・メソッド 5つの基本が学べる フィンランド国語教科書

メルヴィ・バレ / マルック・トリネン / リトバ・コスキパー 著  
北川達夫(北欧文化教育総合研究所・所長、フィンランド・メソッド普及会・会長)  
フィンランド・メソッド普及会 訳・編

# メルヴィ・バレ先生の教育

フィンランドで30年以上、小学校での教育に携わってこられた、国語教育の第一人者メルヴィ・バレ先生。その経験で得た、教育についての考え方を教えてくださいました。

## ●本を読むことの大切さ●

フィンランドでの教育は小学校の教育、特に1・2年生の低学年の教育をとっても重要視しています。そして、この時期に語彙や想像力を養うため、しっかり本を読むことが大切です。また、本をただ読むだけではなく、読んだ後に子ども自身に考えさせることが必要です。子どもたちのイマジネーションを大切にしているので、教科書の挿絵を見て、「これはどういったお話か」「この後はどうなるの？」などと子どもたちに問いかけ、想像力とコミュニケーション力を養います。

## ●間違えることを恐れない●

子どもたちに「間違えることを恐れない」ということを教えています。起こした間違いが学びのスタート地点です。そこから学ぶことが子どもたちの進化につながります。

## ●待つことの大切さ●

教育で大切なことは、まず相手を待つということです。子どもたちをせかしてしまえば、考えたり、想像したりすることができなくなります。あわてずにしっかり待つ。そして相手を理解することが、子どもが一番良いところを引き出す方法です。

## ●子どもたちと親近感を持つ●

私は子どもたちが下校するとき、2つの選択肢を与えています。ひとつは私と握手して帰る。もうひとつは私にぎゅっと抱きしめてもらってから帰る。女の子は抱きしめて帰る方を選ぶのですが、男の子は恥ずかしさもあり、握手を選びます。でもひとりが抱きしめるを選ぶと、みんな抱きしめるを選ぶんですよ。子どもは子どもで、安心できる場所が必要なんです。そうやって子どもたちとしっかりコミュニケーションをとります。

## ●時には授業にスパイスを●

毎日毎日同じ授業では、子どもたちは飽きてしまい、集中力も落ちてきます。そんな時には1週間まったく違うスタイルで授業を行います。例えば1週間海賊になりきって授業をします。衣装も話し方も海賊になりきって勉強することで、次の週の集中力も高まります。いつもと方法を変えて勉強してみたり、仕事をしてみるとはかどりますよ。